



メリルリンチ・グローバル・ウェルス・マネジメントと
キャップジェミニが
第14回ワールド・ウェルス・レポートを発表

世界の富裕層人口および保有資産は2007年末の水準をほぼ回復
- 世界の富裕層人口は17.1%増加し1,000万人に、
その保有資産は39兆米ドルに回復

アジア太平洋地域が保有資産の大幅な回復を主導
- BRIC諸国が引き続き、各地域の成長を牽引

2009年、日本の富裕層人口は20.8%増加し、165万人へ

東京 2010年6月23日 — 世界経済の低調にもかかわらず、世界全体で富裕層が復調をみせたことが、メリルリンチ・グローバル・ウェルス・マネジメントとキャップジェミニが本日発表した第14回ワールド・ウェルス・レポートによって明らかになった。世界の富裕層人口は2009年に1,000万人に回復し、富裕層個人¹の金融資産も増加し、18.9%増の39兆米ドルとなった。また、超富裕層個人²の資産は21.5%増加した。資産の伸びが顕著だったことから、世界の富裕層人口および保有資産は、2008年の減少分をほぼ埋め合わせ、2007年末の水準まで回復した。

¹ 富裕層とは、主な居住用不動産、収集品、消費財および耐久消費財を除いて、100万米ドル以上の投資可能資産を保有する個人と定義される。

² 超富裕層とは、主な居住用不動産、収集品、消費財および耐久消費財を除いて、3,000万米ドル以上の投資可能資産を保有する個人と定義される。

バンク・オブ・アメリカ、グローバル・ウェルス&インベストメント・マネジメントのプレジデントであるサリー・クローチェックは次のように述べた。「ここ数年は、富裕層投資家にとって重要な年だった。2008年には世界の富裕層個人の保有資産はかつてないほど大幅に減少したが、その1年後には、はっきりと回復の兆しが現れた。地域によっては、保有資産や伸び率が完全に2007年の水準にまで回復した。」

キャップジェミニ、グローバル・フィナンシャル・サービスのマネージング・ディレクターであるバートランド・ラヴェイジールは次のように述べた。「このような回復は新興市場、とりわけインド、中国、ブラジルによって牽引されたものであり、今後もこの傾向が続くとみられる」

「実際に2009年には、アジア太平洋地域は、資産形成を促すマクロ経済要因と市場要因の双方が大きく拡大をみせた唯一の地域だった」

世界の富裕層個人の回復は全般的に新興・発展途上国の方が力強かったものの、世界の富裕層個人の人口と保有資産の大部分は依然として米国、日本、ドイツに大きく集中しており、3カ国をあわせた富裕層個人の人口は、2008年の54%からはわずかに低下したものの、2009年でも世界全体の53.5%を占めている。北米の富裕層人口は310万人で引き続き世界最大であり、世界全体の富裕層人口の31%を占めている。

日本の富裕層個人の人口は、アジア太平洋地域の平均成長率25.8%には及ばなかったが、2008年末の136万人から20.8%増加して、2009年末に165万人になった。日本の富裕層は、金融資産で100万米ドル～500万米ドルの層が多く、前年は金融危機の影響で富裕層のカテゴリーから脱落した個人が増えたが、2009年には、株式などの主要資産クラスの回復の恩恵を受けて、再びこれらの個人が富裕層のカテゴリーに戻ってきた。

2008年に特に大きな打撃を受けたアジア太平洋地域が、2009年の回復を主導

2008年に14.2%減少したアジア太平洋地域の富裕層個人の人口は、2009年に上昇に転じて300万人となり、初めて欧州の富裕層個人の人口と肩を並べた。アジア太平洋地域の保有資産も30.9%急増して、9兆7,000億米ドルに達し、2008年の減少分を補っただけでなく、欧州の富裕層個人の保有資産9兆5,000億米ドルをも上回った。

欧州の伸びも相当の規模だったにもかかわらず、資産形成の経済要因と市場要因の双方が引き続き強い伸びを示したアジア太平洋地域の実績に遥かに及ばなかったことが、こうした順位変動の背景にある。2008年に富裕層個人の人口と保有資産が大幅に減少した香港とインドが、2009年のアジア太平洋地域の成長を牽引した。

今後は、アジア太平洋地域とBRIC諸国が富裕層個人の成長の原動力と見込み

今後何年にもわたり、BRIC諸国（ブラジル、ロシア、インド、中国）がそれぞれの地域で富裕層個人の成長を牽引すると期待される。アジア太平洋地域では、中国とインドが引き続き先導役を務め、その景気拡大と富裕層個人の伸び率は、先進諸国を上回り続ける公算が高い。その結果、アジア太平洋地域の富裕層個人の伸び率は、世界で最も急速なものとなると見込まれる。同様に、中南米ではブラジルが、今後も成長の原動力になると予想される。ロシアは豊富なコモディティに恵まれた資源基盤を活かして、強みを発揮すると期待される。

2009年、富裕層は用心深く市場に復帰して、慎重にリターンを追求

富裕層の債券に対する資産配分の比率が、29%から31%に上昇したことからも分かるが、富裕層投資家は予測可能なリターンとキャッシュフローを選好した。世界の株式市場の回復に伴い、株式の保有比率も25%から29%に上昇した。また、現預金の保有比率はわずかに低下した。中南米と日本の富裕層個人が最も保守的で、両地域の富裕層個人は、株価が急上昇しているにもかかわらず、ポートフォリオ全体の52%を現預金か債券の形で保有していた。

富裕層個人が有形資産に対する選好を示し、また、不動産価格の下落に伴い、一部のバーゲン物件の購入に動いたことから、2009年には居住用不動産が富裕層に対する魅力度を幾分回復した。世界の多くの地域における不動産価格の上昇により、不動産資産全体の中で、居住用不動産が占める比率は45%から48%に上昇した。しかしながら、商業用不動産の保有比率は、28%から27%へと若干低下した。その背景には、同セクターにおける賃料収入の減少、需要の低迷、供給の増加などがあった。

2009年には富裕層個人の資産に、地理的分散化の傾向が高まった

2009年には富裕層個人が全般にリターンの向上とポートフォリオの地理的分散化を高めることを追求したことから、保有資産の地理的分布に変化が生じた。同年、中南米を除く全ての地域の富裕層個人が、総じて自地域以外の市場への保有比率を相対的に引き上げた。これは、今後最も大きな成長が予想される地域や市場へ投資が向かう中で、富裕層個人が新興市場に対する配分を増やしていることを反映している可能性がある。こうした変化は、危機のさなかに生じた、自地域への資産還流という世界的なすう勢と対照をなしている。

2011年までに、富裕層個人は自地域への投資をさらに減らし、よりより力強い成長が見込まれる地域に目を向けるようになると予想される。北米や欧州など経済成熟地域の富裕層個人は、より高いリターンを求めてアジア太平洋地域への投資配分を引き続き拡大することが予想され、同時に、欧州の富裕層個人は、ポートフォリオの安定性強化のために、北米の保有資産も増やす公算が高い。

バンク・オブ・アメリカ、グローバル・ウェルス&インベストメント・マネジメントのプレジデントであるサリー・クローチェックは次のように述べた。「このような資産配分の調査結果が示すのは、回復や成長の兆しにもかかわらず、富裕層個人は、金融危機による不安を払拭できず、そのため、投資やリスクテイクの際、より信頼できる、着実なリターンを選好するなど、一層バランスのとれたアプローチを取っていることである。」

「より慎重な投資家に対してベストなサービスを提供するには、ウェルス・マネジメント会社は、効果的なポートフォリオやリスク管理のための専門的な助言、独立した立場からの助言を長期間にわたり投資家に提供するにあたり、明確に投資家の行動の特徴を定義付け、かつ、考慮に入れる必要がある。」

#

注1. 調査方法

ワールド・ウェルス・レポートは世界の71カ国を調査対象としており、世界全体の国民総所得の98%、株式時価総額の99%を網羅している。

メリルリンチ/キャップジェミニの調査チームは、1980年代にメリルリンチに対するコンサルティング業務を通じて開発されたキャップジェミニ・ローレンツ曲線手法を用い、富の規模とその成長を推定している。同手法は、マクロレベルで富裕層の金融資産を算定するために毎年更新されている。

この分析モデルは二段階で構成される。まず国別に富の総額を推定し、次にその国の成人人口における富の分布状況を推定する。国別の富の総額は、国際通貨基金や世界銀行などの機関が公表している様々な国民所得統計類を用いて、毎年の国民貯蓄を算定し、それに基づいて推計される。長期間にわたってこの数値を加算し、その国の蓄積された金融資産を求める。こうして簿価ベースの金融資産が求められる。金融資産の最終的な数字は、株式資産の市場価値が反映されるように、世界の株価指数に基づいて調整される。

成人人口における富の分布状況は国ごとに異なるため、富と所得の既知の関係に基づき、成人人口における富の分布状況を推定する。所得分布データは、世界銀行、グローバル・インサイトおよび各国の国民統計から入手している。それらのデータにローレンツ曲線を当てはめ、各国ごとに成人人口における富の分布状況を把握する。富の全体に占める金融資産の割合を求めるために、データが入手できる国々の統計値を用いて、それらの国々の金融資産の額を計算し、こうして求めた結果を（データが入手できない）その他の国々に当てはめている。

メリルリンチ・グローバル・ウェルス・マネジメントについて

メリルリンチ・グローバル・ウェルス・マネジメント (GWM) は、世界各国の個人および企業を対象に総合的なウェルス・マネジメントと投資サービスを提供する世界有数のプロバイダーである。2010年3月31日現在で15,000人以上のファイナンシャル・アドバイザーを擁し、約1兆4,000億ドルの顧客資産を預かるGWMは、業界の中で世界最大の企業の一つである。GWMの預かり資産の3分の2以上は、100万ドル以上の純資産を保有する顧客からの預かり資産である。GWMの一部であるプライベート・バンキング&インベストメント・グループは、ブティックのようにきめ細かな配慮と、第一級の国際的金融サービス会社の人材的陣容を備えつつ、超富裕層の各顧客一人ひとりに適したソリューションを提供している。これらの顧客に対しては、160以上のプライベート・ウェルス・アドバイザー・チームに加え、投資運用管理、集中的株式管理、世代間の資産承継戦略などの分野の専門家がサービスを提供している。メリルリンチ・グローバル・ウェルス・マネジメントは、バンク・オブ・アメリカ・コーポレーションの傘下にある。

キャップジェミニについて

キャップジェミニは、コンサルティング、テクノロジー、及びアウトソーシング・サービスを提供する世界最先端の企業として、顧客がテクノロジーを通じて自らを変革し、業績を上げていくことを可能にしている。また、同社はコラボラティブ・ビジネス・エクスペリエンス™と名付けた独自の手法を通じて、顧客が高水準の業績を達成する自由度を上げるための洞察や能力も提供している。当グループは、多様な出身地の最高の人材について適切なバランスを図ることを目的

とするライトシェア®と名づけたグローバル・デリバリー・モデルに依拠し、一体となってクライアントのために最適なソリューションを創造・提供することを目指し、協働している。現在拠点を有する国は30カ国以上、2009年の世界全体の通気収益は84億ユーロで、従業員数は90,000人を数える。

キャップジェミニの詳細については www.capgemini.com をご覧ください。

キャップジェミニのウェルス・マネジメント事業は、ウェルス・マネジメント各社が戦略を策定し、実施に移すまでの過程を支援します。キャップジェミニは、世界全体のターゲット市場の規模と潜在力に関する独自の洞察に基づいて、クライアントが新たな顧客戦略を実行し、実務モデルを調整するのを支援すると同時に、予測される売上高と収益性に照らしてソリューションとコストが適切なものとなることを確保します。さらに、ウェルス・マネジメント各社が、既存顧客を維持し、新たなリレーションシップを獲得するために、必要な経営インフラ（経営モデル、プロセス、テクノロジー）を構築し、整備するのを支援します。

キャップジェミニが、お客さまのお役に立てる点に関する詳しい情報については、www.capgemini.com/financialservices をご覧ください。

Rightshore® はキャップジェミニの登録商標です。

※ 2010ワールド・ウェルス・レポートは、以下のURLよりダウンロードが可能です。
www.capgemini.com/worldwealthreport

#